

第4回西区まちづくり懇談会 会議要旨

1 **開催日時** 令和2年（2020年）2月20日 午後6時30分～午後8時10分

2 **開催場所** 西区役所4階 研修室

3 出席者

(1) 委員（17人中14人出席）

朴座長、谷口副座長、泉委員、岩井委員、梅本委員、川崎委員、眞田委員、椿原委員、橋川委員、原田委員、満田委員、水戸川委員、村上委員、本西委員

(2) 西区役所

区長、副区長、地域起こし推進課長

4 議題

西区の魅力と活力を高めるためのアクションプランの案について

5 **公開・非公開の別** 公開

6 **傍聴者** なし

7 会議資料

議事資料 西区の魅力と活力を高めるためのアクションプラン2020（案）

8 議事内容等

議事資料により、地域起こし推進課長が説明を行った。

第4回西区まちづくり懇談会の議論を踏まえた修正については座長に一任し、西区まちづくり懇談会は今回をもって終了した。

<発言の要旨>

原田委員

アクションプランの写真について、口頭で説明があったが、写真だけでは分からないので何の写真か記載した方がよい。

地域起こし推進課長

記載する。

朴座長

写真の中で顔がはっきりと写っているものがあるが、写真掲載の許可をとっているのか。

最近では、大学行事などの様子を掲載するための写真は、事前に説明し許可をとった上で、後ろ姿を撮影するようにしている。

地域起こし推進課長

許可をとっている。

岩井委員

西区は中学校からは給食がないと聞いている。働きながら毎日弁当を作るのは大変なので、支援があるとよい。

また、子育てオープンスペースは平日の日中に開設していることが多く、働き始めると利用が難しい。土曜、日曜も開設すれば利用できる人も増え、区役所との接点も増える。

地域起こし推進課長

中学校の給食や子育てオープンスペースの開設状況について調べて回答する。

梅本委員

中学校では、デリバリー給食の提供があるが、好きなものを食べたいという子どもの希望で弁当を作っている親が多いようだ。

泉委員

商店街の取組で横川の取組が多く、西広島を取組を挟んで上下に記載があるが、一つにまとめないのか。

地域起こし推進課長

取組内容が違うため、それぞれ記載している。記載順は変更する。

朴座長

JR新井口駅は、周辺人口は多いように思うが、大きなイベントはないのか。修道大学で地域と連携して活性化の取組を行うプログラムがあるが、先日の報告会では、横川地区と西広島地区で活動する学生の報告はあったが、井口地区で活動する学生はいなかった。

地域起こし推進課長

JR新井口駅周辺では、広島ドラゴンフライズが広島サンプラザを拠点にしており、西区では、同様に西区を拠点とするアンジュヴィオレ広島、ヴィクトワール広島と3チームの協力のもと「わくわくうんどうかい」という事業を広島サンプラザで行っている。イベントでは「西区民まつり」が西部埋立第五公園と広島サンプラザである。

梅本委員

最近天満屋が撤退し、にぎわいがなくなったように思う。

区長

J R新井口駅からアルパークまでのペDESTリアンデッキへは、広島ドラゴンフライズを応援するパネルや柱巻きを設置している。撤退した天満屋の後に出店などの動きがあれば、また活気が出てくると思う。

副区長

横川駅や西広島駅と違い、新井口駅は商工センター地区の開発に併せて後から整備したものであり、周辺に商店街はなく、イベントができるようなスペースもないため、横川や西広島のように駅前でイベントを行うことが難しい。

谷口副座長

マイ・タイムラインは、区民にどのようなものか分かりやすく周知を図っているところか。

地域起こし推進課長

今年度から全市的に取り組んでいるものである。

村上委員

西区が最も外国人が多いそうだが、災害があった際に日本語で警報などが出るが、外国語では出ないのか。日本語だけでは分からず、困るのではないか。

地域起こし推進課長

外国語で通知するためのシステムの整備が必要かもしれない。

区長

前回の会議でも話題になったが、誰もが分かるようにやさしい日本語を使うということを普及することも必要である。

村上委員

先日、日本政策金融公庫から、飲食店で使えるよう英語、中国語、韓国語の指差しボードの提供があった。お互い相手の言葉が分からなくてもコミュニケーションできるので大変助かっている。

地域起こし推進課長

外国語の種類は少ないが、区役所にもコミュニケーションボードはあり、避難所では使用している。しかし、今指摘があったように避難所に避難する前に、避難勧告などを知らせるメールやテレビの表示が理解できるかどうかは重要である。

副区長

平成26年8月豪雨災害以降、市民局人権啓発部の多文化共生担当が検討を進めていると思うので、現状を確認する。

地域起こし推進課長

多文化共生担当は、9か国語で外国人向けの生活ガイドブックを作成、配布している。

区長

その中に防災についても記載されていると思うが、確認する。

谷口副座長

楽しいイベントを開催して外国人の参加機会を増やして、その中で災害が起こった時にどうするかということなどを伝えるのがよい。

区長

災害もそうであるが、日常的な決まり事や町内会の加入などについてもイベントを通じて発信できたらよい。

朴座長

留学生の場合は、大学が個人の連絡先を把握しているので、何かあった場合は一斉に連絡をとることが可能であり、あまり問題はないと思うが、一般の外国人の場合は分かりやすく伝えやすい情報提供の仕組みが必要である。

泉委員

色々な国の人がいると思うが、西区の中にそれぞれコミュニティがあるのか。

村上委員

住民が交流する機会はあまりないが、楠木には広島ベトナム協会があり、そこにベトナム人が集まって情報を得ているようである。他の国についても同様にあると思う。

副区長

広島市では、約2万人の外国人住民がいるが、特別永住者や技能実習生などが半数以上を占めており、日本語が全く分からない人ばかりというわけではない。

本西委員

推進体制について、組織を作るのか、地域が実施して区役所がチェックするのかなど、どのように進めるのか説明してほしい。

地域起こし推進課長

今回の基本計画の取組で初めてアクションプランを作ることになったため、現時点で具体的に決まっているわけではない。

区長

14ページの図にあるように、区民、地域団体、企業・NPO、行政が連携して共にまちづくりを進めていく。

水戸川委員

女子サッカーチームのアンジュヴィオレ広島は横川のまちづくりの一環で誕生した。地域で生まれて地域で育ったチームであり、まちづくりの大きな力になっている。地域住民が、自らの住む地域を活性化しようと行動しているので、引き続き行政にも支援をお願いしたい。

区長

アンジュヴィオレ広島は西区を拠点とするトップスポーツチームとして、JR横川駅前に横断幕や柱巻きをするなど、西区役所も応援している。

谷口副座長

西区は自然があり、商店街や商業施設もありと多岐にわたる地域である。アクションプランも多岐にわたったものとなっており、時代に合ったものになっていると思う。

原田委員

推進体制について、誰がチェックするのか。PDCAサイクルがうまく回るような体制としてほしい。

地域起こし推進課長

主体は行政になるが、各種団体が集まった場において意見をもらうということを考えている。

村上委員

広島西飛行場の跡地はどうなるのか。

副区長

広島西飛行場の跡地は、広島商工会議所の提言を受け、広島県が見本市や国際会議が開催できる施設の整備を検討していたが、先日断念することとなった。北側のヘリポート部分を除いて3つのゾーンに区分けされており、「新たな産業（雇用）」ゾーンは広島県が実施した公募により、大和ハウス工業が事業者として産業団地の開発を進めている。「スポーツ・レクリエーション」ゾーンは、広島市が来年度からスポーツ広場の整備に着手する予定となって

いる。「新たな産業（にぎわい）」ゾーンは、広島県が事業予定者を公募したが決まらず、未定である。

岩井委員

区役所に婚姻届を提出した際に、風しんなどの予防接種の必要性について情報提供があり、知識がなかったのととても助かった。安全・安心の観点からは、病気についても重要なことなので、情報発信をお願いしたい。

区長

区役所には保健センターの機能もあり、予防接種などの情報を発信しているが、届いていない人もいるので、効果的なものとなるよう努めたい。

梅本委員

鈴峯女子中・高等学校の校舎跡地に住宅の建設が進んでいるが、今後、車両の交通量が増えて渋滞や交通事故が増えるのではないかと町内会で話題になっている。児童・生徒が増えることで小・中学校や放課後児童クラブの許容量を超えるのではないかと心配である。

橋川委員

地域と企業との連携促進について、行政として後押しをしてほしい。呉では、日本製鉄が地元の知事や市長に事前に相談もなく、3千人もの従業員がいる呉製鉄所の閉鎖を公表したということもあり、企業の地域貢献に対する姿勢に疑問がある。

区長

行政としても地元の企業の協力により行っている事業も多くある。新たな取組ということで、どのように進めるか今後検討していきたい。地域からもアイデアをいただきたい。業績などの要因もあり、地域貢献に消極的な企業もあるが、地域に貢献することで企業価値が上がるということもあり、力を入れている企業もある。地域貢献に積極的な企業と連携して、地域を盛り上げていきたい。

川崎委員

西広島では、ひろでん会館の跡地を暫定的に、広島電鉄がにぎわいの広場として整備し、にぎわいづくりに貢献している。

消防団として活動する中で、災害が起きた場合には、公助には限界があり、自助と共助が必要だということを子どもたちに伝えている。しかし、町内会加入率は年々低下しており、町内会費を払っているだけの加入者も多く、もっと多くの人に活動に参加してもらいたい。何とか改善するような取組を進めてほしい。

区長

新たな取組として、来年度から町内会の実態調査を行い、活性化策を検討していく。若い担い手をいかに確保して育成するかというのが課題である。

朴座長

2、3年前に地域の役員をしたが、40代、50代の方は忙しいのか、頼みごとをしてもなかなか引き受けてもらえなかった。行政のみでは解決が難しいと思う。

区長

町内会は情報を地域の人に届ける役割を担ってくれているが、加入率が下がると、情報を届けることが難しくなる。前回、浦委員から提案あったように、町内会加入によるインセンティブを新たに設定するなど検討を進めたい。

副区長

西区民だよりの3月1日号で町内会加入を呼びかける記事を掲載する予定である。地域デビューを支援するような取組等に対する補助金などの制度もあり、加入率の向上に努めたい。

水戸川委員

毎年1月にとんど祭りをしているが、三篠学区の16町内会が集まって、それぞれ町内会のブースを出している。町内会長、子ども会会長を中心に多くの人に参加し、若い人にも色々手伝ってもらっている。地域住民が集まる行事を行うことによって住民のつながりを作りつつ、次の担い手を育成することが必要である。学区の運動会や防災訓練などは若い人の発掘にもつながりやすい。自分たちのまちは自分たちで守るという意識付けが重要である。

村上委員

三篠学区の町内会長から加入率が低いという話があり、加入促進チラシを作った。町内会に入ると楽しいことがたくさんありますよという内容のものを作ったら、逆にそれだけたくさん町内会の仕事をしなければならないので入りたくないということだった。平成26年の豪雨災害で被災して緑井から横川に転居してきた人が、普段から近所づきあいをしていなかったことを後悔し、転居後すぐに町内会に加入したそうである。楽しいから入りなさいというよりは、今は大きな災害も起きているので、困ったときに助け合えるという誘いの方がよいのかもしれない。